

< 30-02 > 令和 2 年度京都府普及指導活動外部評価結果

課題名	宇治茶の持続的発展のための生産体制の強化～てん茶生産技術と相楽東部の茶産地支援～	ものづくり ・ 販路づくり	山城北農業改良普及センター 山城南農業改良普及センター
(1) 普及指導事項（評価対象） ①良質てん茶の安定生産支援 ②茶業後継者を養成する仕組みづくり		(2) 普及指導対象 ①南山城村内のてん茶共同工場の組合員 24 名 ②後継者を養成したい茶農家及び共同工場 （農協茶業部会員 71 戸）	
(3) 活動内容と成果			
① 良質てん茶の安定生産支援 直掛け栽培の習得のため、てん茶生産に必要な被覆開始適期の把握等について、3 日おきに対象農家の茶園を巡回し、芽の伸び具合の判断を写真を用いて指導した。また、直掛け被覆栽培を行った生葉の蒸熱条件を改善するため、工場での製造指導を行うとともに、研修会で荒茶品質の評価を行った。棚被覆栽培の習得のため、棚被覆の展示ほを 7 カ所設置し、被覆開始から摘採時期までの巡回指導及び蒸熱操作の習得支援を行った。これらの結果、被覆開始時期や生葉の蒸熱条件への理解が深まり、生葉品質や製茶工程全般の品質改善につながった。荒茶単価は目標価格には至らなかったものの府全体平均比 94% まで向上した。			
② 茶業後継者を養成する仕組みづくり 村内生産者の意向把握のため、茶業振興対策協議会が行うアンケート調査を支援し、とりまとめた。南やましろ村茶業塾の立ち上げに向け、茶業塾実行委員会の立ち上げや茶業指導員の募集を支援した。宇治茶実践型学舎の取組を通じた村への就農希望者に対し、茶業塾の指導員の協力を得てプレインターンシップ及びインターンシップの実施を支援した。その結果、研修受け入れ農家（茶業指導員）の確保ができ、指導体制が整った（8 戸）。また、連携して研修を実施している学舎の 1 期生が令和 3 年 12 月に就農予定。			

(4) コメント	(5) 普及指導計画への反映状況、今後の活動等
＜対象の問題解決のため効果的なねらいと働きかけになっていたか＞ てん茶生産技術の向上指導と後継者の育成に関する仕組づくりは、この地域の最重要課題である。 後継者育成の取組では、研修者を確実に就農へと導いてもらいたい。	本課題は、当地域での重要課題の1つと認識しており、今回、2工場で得られた成果を地域全体へ波及するとともに、なお一層の良質茶生産に向けた技術指導に取り組みます。また、良質茶生産の普及を通じ、農業経営の安定化を図り、次世代へ魅力ある経営となるよう継続して後継者育成に取り組みます。 来年度予定されている現地での研修が大切と考えており、一連の茶の作業を通じ、地域に受け込み、周辺農家の理解も得つつ、茶園や製茶工場などの条件を整えられるよう、引き続き、支援していきます。
＜働きかけ（活動）によって導かれた対象は、目指す姿に到達したか＞ 品質に基づく価格形成は他産地と相対的なものであり、今後も技術向上の探求が主体的にできる誘導が必要である。 価格の変動が大きく、後継者を育てることは難しい中、若い後継者が一生懸命取り組んでいる姿を見るので、ますますの指導をいただきたい。	全国的な茶情勢を見ると、てん茶の生産が増加しており、これまで以上に産地間競争が激しくなるものと考えており、今後とも一層の品質向上に向けた支援は必要で、各技術レベルに応じた栽培や製造の技術について農家自らが判断できるように指導に努めます。 上記の技術指導に合わせながら、各個人の技術や経営課題に寄り添い、必要な技術の普及や制度融資の紹介など経営が安定できるよう支援していきます。
＜それは成果指標に表れているか＞ 後継者の養成については、もう少し高い目標を掲げてもらいたい。 目標単価には至らなかったということだが、長い目で見た方が良いと感じた（マーケットの問題もあるかと思われる）。	今回は、受け入れシステムを構築することに主眼を置いておりました。地元農家も問題意識を持っており、関係機関とも相談しながら、産地として後継者が何人必要かを明らかにして目標設定し、計画的に取り組んでいきます。 目標単価については、抹茶ブームの中、作れば売れる時から多くの産地

	が参入してきたことに加え、コロナ禍や市場価格の低迷などにより、到達には至りませんでした。今後は、品質重視の取組が必要と考えており、今回の成果の普及に努めます。
<課題解決に向けて関係機関と連携した取り組みがされていたか> 茶青などと連携して後継者の仲間づくりをお願いしたい。 達成目標が1という最小値であることは努力目標として低いのではないかと。昨年の評価会で出た意見「茶業だけでは通年の仕事にならないので、他の業種との複合が必要」にあるように、農業だけで展開するには限界がある。 後継者の育成については、十分とは言えないのでは。後継者を育てるために必要なことが明確になっていないようである。もしそれができているなら次年度からの活動の中にそれを入れるべき。 大学等の研究機関と連携されることも効果的ではないか。	地元には、茶業青年団組織が活発に活動しており、加入を促すとともに、地域の自治会等へも積極的に関わるよう助言していきます。 【再掲】今回は、受け入れシステムを構築することに主眼を置いておりました。地元農家も問題意識を持っており、関係機関とも相談しながら、産地として後継者が何人必要かを明らかにして目標設定し、計画的に取り組んでいきます。 これまで、関係機関と協議を重ねながら、茶業指導員の選定等インターンシップ研修受け入れ体制等のシステム構築を中心に支援してきました。今回の取組を関係機関とともに検証する中で、ご指摘の後継者育成に必要な内容を精査して、それに基づいた受け入れに向け、検討していきます。 振興局で、民間企業や大学の研究機関との共同事業が予算化されており、茶業分野で取り組める課題があるか、検討します。
<総合コメント> 若い担い手の安定経営にむけ、茶＋αの営農類型の確立指導を期待したい。 後継者確保については、本気度がやや低いと感じた。関係機関との連携により問題意識が共有され、産地として何人が必要なのか、事前調整が必要である。 輸出や機能性をアピールしながらブランド化した京都のてん茶を目指し	中山間である当地域では、大規模茶業経営は難しく、現状の規模では、他作物と組み合わせが必要と考えております。今後、茶作業との競合や商品性等を検証し、作物を選定していきます。 茶業塾、宇治茶実践学舎などの成果を関係機関と共有する中で、今後の取組に向けた検討を重ね、産地としての担い手確保の方向性を探っていきます。

て指導してほしい。 後継者育成は持続的に実施する必要があるかと思う。組織支援、育成は特に重要だと思った。 品種の選定も今後の課題ではないか。	南山城村産てん茶のさらなる品質向上を支援することにより、京都府産てん茶のブランド化に寄与していきたいと考えています。 今回の取り組みを1事例として、関係機関とともに他地区への普及を図るとともに、新たな希望者の発掘に努めます。 市場を通じた情報収集や茶業研究所の育成品種など、評価を聞きながら現地に適した品種導入を支援します。
---	---